

奨励賞



「セケ浜の海について」

四年一組 野俣 颯侍郎

この話は、お父さんとお兄ちゃんとおぼくとで、海に行ったときのお話です。初めは、波うちぎおで、あるんどいきました。さい初はキイトと思いましたが。そのうち、海の中にゴミがあるのを見つけた。そのゴミは、カツプラーメンのカツプやビニールのゴミぶくろ「コンビ」のベルトのようなキコカがありました。そのほかにはワカメなどの海草ウモたくさんありました。ただ、ワカメなどはじむんの物なので海にえいきうはないと思います。カツプラーメンのカツプやビニールのゴミぶくろは、人工的な物なので自然にほかえりません。それを見て、ぼくはかなしか。たし、なせ海にゴミをすてるのが、ゴミにゴミに思いました。テレビでは、カメがゴミをくろくろをエサとまちがえて食べてしまい死んでしまう事があると聞きました。それは、人間がカメをくろくろしているのと同じだと思う

ます。ぼくはぜひ、たいごごはゴミ箱にするよ
うとちがいます。その後、お父さんにサーフ
ボードにのせてもらって、事になり教えてもらえ
た事がありました。サーフボードの表の部分
にぬるワックスについてです。このワックス
はすべりどめのためにはぬります。ワックスの
中には、石油がふくまわした物が、今で
は石油を使わず、えんごんの植物油を使い、エ
コなワックスのようです。サーフボードを作る
人も海を大切にしている事が分かりました。

ぼくは、七ヶ浜の海がすきだし、海をすかい
にたもつ事の大切さを学んだ気がします。使
く一人じゃ海がきれいにやると思いませんが
自分ができてる事だけできやりたいと思いま
した。